

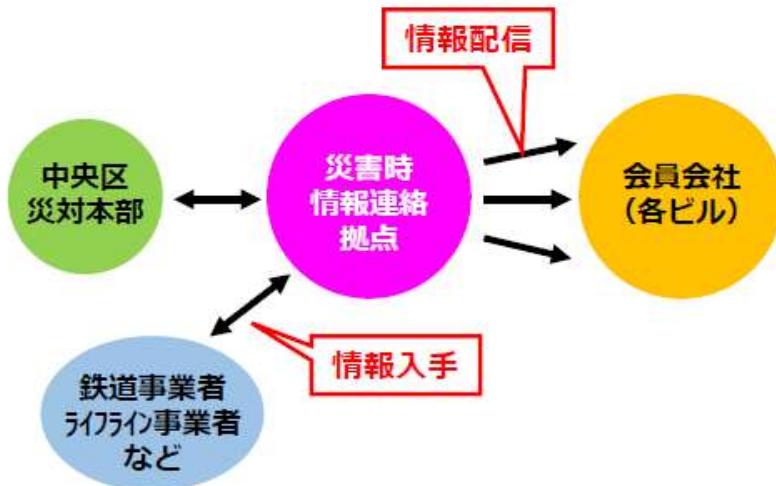
6. 災害時の行動ルール

(2) 滞在期の行動ルール

御堂筋まちづくりネットワーク災害時行動マニュアル（案）より抜粋

◆発災後数時間が経過し、エリア内外の状況を把握でき、帰宅が困難と判断される場合、各ビルでの滞在や帰宅困難者対応における助け合いや情報共有などを共助として行います。

- 御堂筋まちづくりネットワークの災害時共助行動のベースは、“情報の収集と配信”であり、これを定期的に更新していく活動が基本となります。
- その中で、支援が必要なビルに対する助けを行ったり、外部との連携協力が必要な時にエリアとして協力したり、適宜拠点を中心に判断・行動していきます。



<滞在期に想定される共助行動>

想定（例）	共助としての対応（例）
什器破損や水損等によりビル内滞在が困難となった	拠点が各ビルの余剰スペース等を確認し、会員各ビルが受入れる
滞在が長期化し、帰宅困難者への備蓄提供が必要となった	各ビルの備蓄で余裕のあるものを提供頂き、これを集約して配分する

